

薬学教育評価

評価報告書

受審大学名 東京薬科大学薬学部

(本評価実施年度) 2023 年度

(作成日) 2024 年 3 月 1 日

一般社団法人 薬学教育評価機構

I. 総合判定の結果

東京薬科大学薬学部(6年制薬学教育プログラム)は、薬学教育評価機構が定める「薬学教育評価 評価基準」に適合していると認定する。

認定の期間は、2031年3月31日までとする。

II. 総評

東京薬科大学薬学部は、創立以来142年の間に薬剤師の基本的使命を重視し、医療を取り巻く環境並びに社会のニーズの変遷に沿いながら、教育研究上の目的を「医療を担う薬学人に相応しい十分な知識と技術、及び人類の福祉に貢献できる豊かな人間性と広い視野を持つ人材の育成を目的とする。」と設定し、これに基づき三つの方針が策定されている。現時点では薬学部には3学科を設定しており、学科ごとのディプロマ・ポリシー、並びにカリキュラム・ポリシーを掲げている。

内部質保証については、資する評価体制、及びその評価に基づき改善に取り組む体制の整備が進められている。教育プログラムとしては、2022年度から新しいカリキュラムで進められており、授業科目、実習科目についてはさまざまな工夫がなされ、特にルーブリック表を用いた学習成果の評価も適切に行われている。研究においては、共同研究センターの設置や、外部機関と種々の提携を締結し、次世代型の薬学教育・研究活動を行うための環境を積極的に整備している。若手研究者の登用比率及び若手研究者の育成、活躍推進の目標を定め、公表し、若手研究者の育成に努めている。また、産業界及び地域の関係団体等と協定を締結して、地域医療の課題解決や、医療・医薬品情報の適切な提供と医療人材の育成を積極的に進めている。これらの点は優れた取り組みとして高く評価できる。

しかしながら、カリキュラム・ポリシーでは、学科ごとに求められる特徴的な資質を評価する方法については記載が不十分であり、またそれぞれの学科のディプロマ・ポリシーと整合性が取れていない部分がある。また、成績評価については、履修要項と一致していないものが散見され、一部の科目では科目独自の評価基準が設けられており、公正性、厳格性に欠ける。これらの点については改善が必要である。学修成果の評価については、アセスメント・プランは作成されたばかりであり、今後は教員の評価を含めた総合的評価とし、その評価結果を教育プログラムの改善・向上に活用するための取り組みが必要である。

東京薬科大学薬学部は、カリキュラム改革や次世代型の薬学教育・研究活動を行うための環境整備などに取り組み、教育研究上の目的を達成するための薬学教育プログラムの設

定に努めている。今後、本評価での指摘を活かし、特にアセスメント・プランの実施体制を強化し、適切かつ総合的な学修成果の評価方法を設定することにより、教育プログラムの改善と充実が図られることを期待する。

Ⅲ. 『項目』ごとの概評

1 教育研究上の目的と三つの方針

本項目は、おおむね適合水準に達しているが、カリキュラム・ポリシーにおいて懸念される点が認められる。

東京薬科大学は、大学の理念を「ヒューマニズムの精神に基づいて、視野の広い、心豊かな人材を育成し、薬学並びに生命科学の領域における教育と研究を通じて、人類の福祉と世界の平和に貢献する。」と定めている。薬学部の教育・研究上の目的を「医療を担う薬学人に相応しい十分な知識と技術、及び人類の福祉に貢献できる豊かな人間性と広い視野を持つ人材の育成を目的とする。」とし、さらに、「(1) 医療薬学科は、医療現場で医療チームの一員として高度医療を支える薬剤師の育成に、(2) 医療薬物薬学科は、医療現場のニーズに即した医薬品の開発、改良及び生産など企業を中心として活躍できる薬剤師の育成に、(3) 医療衛生薬学科は、疾病の予防・治療や健康維持のため、薬局又は薬事・衛生行政で活躍できる薬剤師の育成に重点を置くこと」としている。この教育研究上の目的は、創立以来 142 年の間に薬剤師の基本的使命を重視し、医療を取り巻く環境並びに社会のニーズの変遷に沿いながら必要に応じて改定されている。これらの教育研究上の目的は学則に規定され、ホームページを通じて、教職員、学生及び社会に対して広く周知・公表されている。

薬学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）は以下のように定められている。

薬学部は、医療を担う薬学人にふさわしい人材として、以下の能力を備え、所定の単位を修得した学生には卒業を認定し、学位（学士（薬学））を授与します。

1. 豊かな人間性と生命の尊厳についての基本的な教養を身につけている。
2. 医療の担い手として、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を身につけ

- ている。
3. 薬剤師に必要な任務と法令を理解し、専門分野の基礎的な知識・技能・態度と実践的能力を修得している。
 4. 地域医療、チーム医療等の現場で患者や他の医療従事者と良好なコミュニケーションをとり、チームの一員としての役割を果たすことができる。
 5. 薬学・医療の進歩と改善に資するための研究的思考、問題発見・解決能力を身につけている。
 6. 生涯自己研鑽を続けるために必要な情報の活用力とともに、次世代への指導能力を持っている。

さらに各学科ごとに、卒業までに学生が身につけるべき資質・能力が具体的に設定されている。

薬学部では、4年次に学生の志望による卒論教室の配属と、それに伴う医療薬学科、医療薬物薬学科、あるいは医療衛生薬学科への分科を実施します。薬学部全体の方針に加えて、各学科において以下の能力を備え、所定の単位を習得した学生には卒業を認定し、学位（学士（薬学））を授与します。

医療薬学科

癌化学療法、抗菌薬療法、糖尿病薬物療法など、疾患に特化した臨床薬学の知識を活かした薬物療法の中心的担い手となる薬剤師としての素養を身につけている。

医療薬物薬学科

創薬を取り巻く科学と技術の進展に合わせ、疾病の予防、診断、治療のために必須である薬の創製に関連する社会的ニーズを察知し、それらに応じられる薬剤師としての素養を身につけている。

医療衛生薬学科

人々の健康維持・増進に関わる医療、保健、衛生、行政、食品、化粧品、セルフメディケーション等の社会的ニーズに応じられる薬剤師としての素養を身につけている。

このように、DPは「薬剤師として求められる基本的な資質」、並びに各学科で特に育成する資質を含めたものになっている。

薬学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：C P）は以下のよう
に定められている。

薬学部の教育課程は、薬学教育モデル・コアカリキュラムを基本として必修科目、選択
科目、自由科目の3つの柱から成り立ち、各分野の科目は年次進行とともに基礎的内容か
ら発展的・応用的内容に展開するように体系的に配置されています。科目ごとに到達目標
と評価基準を定め、客観試験、口頭試験、レポート、シミュレーションテストなど様々な
方法を用いて学修成果を多面的に評価します。

薬学部では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成
するために、以下の方針に従い教育課程を編成しています。

1. 入学早期から薬学の基礎知識を身につけ、大学での学びへスムーズに移行できるよ
うに基礎科目・入門科目を配置します。
2. 医療の担い手としての基本的教養（使命感、責任感、倫理観）やコミュニケーション技
能を身につけるために、一般教養科目（必修・選択）、外国語科目（必修・選択）を配
置します。
3. 豊かな人間性と倫理観を有する医療人を養成するために、講義、演習、小グループ討議、
PBL、実習、課題研究などの様々な方略を用い、医療の担い手として求められる知識、
技能、態度の修得を図ります。
4. 薬学の基盤となる「人間と薬学」、「物理系薬学」、「化学系薬学」、「生薬系薬学」、「生物
系薬学」、「健康と環境」、「医薬品をつくる」、「薬と疾病」、各系の科目において、薬剤
師に必要な専門分野の基本的な知識・技能の修得を図ります。
5. 薬学臨床に関連する科目や臨床実習において、薬物療法、地域医療、チーム医療等を実
践するための基本的な能力の修得を図ります。
6. 高度な医療（臨床）薬学から医薬品開発に関連する科目や課題研究において、薬学・医
療の進歩と改善に資するための研究的思考、問題発見・解決能力、倫理観の育成を図
ります。
7. 臨床実習や課題研究において、生涯にわたり自己研鑽を続けるための情報収集能力及
び次世代を育成する意欲と態度の修得を図ります。

さらに学科別のC Pも以下のように定められている。

薬学部では、4年次に学生の希望に応じた卒論教室の配属とそれにとまなう医療薬学科、
医療薬物薬学科あるいは医療衛生薬学科への分科を実施します。以下の方針に従いそれぞ

れの学科において特色のある科目を開設し、専門性の高い薬剤師の養成を目指します。

医療薬学科：医療チームの一員としての高度な薬剤師の養成

臨床医や専門薬剤師、製薬企業などの外来講師も加え、医療現場や医薬品の臨床開発に関する科目を履修し、医療現場で求められる高度な知識と技能、患者さんや医療チームメンバーに対する適切な態度の修得を図ります。

医療薬物薬学科：疾病の予防、診断、治療のために必須の創薬研究に挑戦できる薬剤師の育成

有機化学、分析化学、生化学、薬理学、薬剤学などの分野の最先端の研究と創薬の関係に関する科目ならびに薬の創製に関連する専門領域の科目を履修し、創薬研究に挑戦できる能力の修得を図ります。

医療衛生薬学科：健康・環境科学、老年期医療、再生医療、予防医療などに関して卓越した知識・技能・態度を身に付けた薬剤師の育成

医療、保健、衛生、行政、食品、化粧品、セルフメディケーションに関わる科目を履修し、高齢化や慢性・難治性疾患、疾病の予防に関する知識、技能、態度の修得を図ります。

このように、CPでは、卒業の認定に関する方針を踏まえた教育課程編成、当該教育課程における教育内容が具体的に設定されている。しかし、教育の方法、学修成果の評価については、科目ごとの評価方法を総括的に記載しているだけで、資質・能力ごとの評価方法、特に学科ごとに特徴的な資質を評価する方法については記載が不十分であり、改善する必要がある。また、各学科のCPの冒頭に示された薬剤師養成に係る記述（・・・薬剤師の養成）がそれぞれの学科のDP（・・・薬剤師としての素養を身につけている）と整合性が取れていない部分があり、DPとの関係が理解しにくいので、整合性が取れるように改善することが望まれる。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー：AP）は以下のように定められている。

薬学部では、人類と生命を慈しむ心と医療を担う薬学人にふさわしい十分な知識と態度を持ち、人類の福祉と健康に貢献できる豊かな人間性と広い視野を持つ人材を育成するために、以下の能力を持つ学生を求めています。

薬学部が求める学生像

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を持っている。
2. 相互理解のための基本的表現力を有している。
3. 自分の考え、意見や行動に責任をもてる。
4. 医療を担う薬学人として、人類の福祉と健康に貢献したいという強い意志がある。
5. 健康で豊かな人間性と倫理観を養うために、自己啓発・自己学修・自己の健康増進に積極的かつ継続的に取り組む意欲を持っている。
6. 社会・地域活動、環境保全活動さらには文化・芸術・スポーツ活動に積極的に参加する意欲を持っている。

このようにAPは、DP及びCPと適切性・一貫性・整合性のあるものとして制定されている。しかし、APでは、それぞれの入試方式ごとに、求める学生像と、それをどのように評価・選抜するかについても具体的に記載することが望まれる。

これら三つの方針は、「授業計画」(シラバス)の冒頭に記載するとともに、入学時等の教務ガイダンスで説明し、学生及び教職員に周知を図っている。また三つの方針は、ホームページを通じて学内並びに広く社会に公表している。

学校教育法の一部改正(2016(平成28)年3月公布)に伴い、三つの方針の改訂に取り組み、外部委員を加えた「三つの方針検討委員会」を発足させ、2017年には「改訂第三版三つの方針」を制定している。さらに、2019年には三つの方針の継続的な検証のため、「三つの方針(ポリシー)策定のための方針」を新たに策定し、これに基づき、三つの方針は教授会で毎年定期的に検証しその結果を教育研究審議会に報告して、定期的に検証している。

2 内部質保証

本項目は、おおむね適合水準に達しているが、アセスメント・プランに基づく評価を改善・向上に活用する体制について懸念される点が認められる。

東京薬科大学では、「内部質保証のための方針」、「求める教員像及び教員組織の編成方針」、「学生支援の方針」、「教育研究環境整備の方針」そして「社会連携・社会貢献に関する方針」を定め、ホームページで広く公表している。「内部質保証のための方針」に基づき、「薬学部自己点検・評価、内部質保証実施委員会(以下、実施委員会)」が主体となって、各種委員会の単位で点検・評価を実施している。各委員会による質的・量的な解析結果は、毎年「委員会活動報告書」として学部長に報告され、学部長はその活動報告書を精査し、

必要に応じて当該委員会に改善を指示する体制となっている。さらに「実施委員会」からの自己点検・評価報告は、全学の「自己点検・評価、内部質保証委員会」または外部委員1名を含む「拡大自己点検・評価、内部質保証委員会」において全学的観点から検証され、改善策を学長に提案し、さらに学長は、この提案を「教育研究審議会」に諮り、必要に応じて学部長・研究科長等に改善を指示する体制となっている。この内部質保証の体系図はホームページに公開されている。このように内部質保証のための点検・評価は定期的実施する体制となっている。しかし、薬学部内において、各種委員会の活動報告書を精査するのが学部長一人であり、より効果的に点検・評価を行える体制の構築が望まれる。

三つの方針の達成状況、効果、適切性を自己評価するために、学修成果を評価・測定する指針としてアセスメント・プランを定め、2022年度から運用している。アセスメント・プランでは、授業科目レベル、教育課程レベル、学習成果の定点的な測定、課題研究論文の質的な解析・評価、卒業コンピテンシー、学生の在籍状況、卒業生調査等を含めている。2022年度からは教育現場の課題として直感に頼ってきた学生の様々な悩みを科学的に解決することを目的に、教育調査（NOCC教育検査）や、問題解決力、対人基礎力、対自己基礎力及び対課題基礎力といったジェネリックスキルを測定するテストも導入し、これらの結果を解析することで教育研究活動を改善する試みがなされている。しかしながら、アセスメント・プランは作成されたばかりであり、また客観的な評価・測定結果を教育課程の編成及び改善・向上に活用する体制の構築は未だ不十分と言える。今後適切な体制の構築を進め、教育課程の編成及び改善・向上を図ることが必要である。

自己点検・評価の結果は、授業アンケート結果や認証評価機関による第三者評価の結果等とともにホームページで公表している。また、薬学教育評価機構による第三者評価を2015（平成27）年度に受審し、指摘された但し書き、及び改善点・助言に対してさらなる改善を進めている。

（3-1）教育課程の編成

本項目は、適合水準に達している。

薬学部の教育カリキュラムは、(1) 薬学準備教育、(2) 薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した教育、(3) 大学独自の薬学専門教育から構成され、基礎的内容から発展的・応用的内容に展開している。科目は必修科目（116科目、168単位）、選択科目（70科目、18単位以上）、自由科目（10科目）の3つの柱から成り立ち、学生のニーズや将来の進路に合わせて自由に選択できる。

一般教養・語学科目は、人文・社会・情報科学・語学領域における多様な科目（43科目）が開講されている。一般教養科目は、1～3年次に配置されており、その学習内容は、薬学教育モデル・コアカリキュラムとの対応づけをシラバスに明記することにより、薬学教育と関連づけている。語学教育は、1～5年次に配置され、基本的な語彙や構文の習得から、時事英語や薬学専門的な語彙も含め、聞き、話し、読み、書くという、英語4技能の総合的な向上を図っている。さらに特徴的な取り組みとして、英語の「多読」学習の導入を提案し、教材を図書館に整備している。人の行動と心理に関する教育は、1～5年次に体系的に編成されている。専門科目では、薬学教育モデル・コアカリキュラムの対応するGIO（General Instructional Objective）とSBOs（Specific Behavioral Objectives）に則して授業を行い、その内容を具体的に「授業計画」（シラバス）に明記している。薬学臨床系必修科目は、「医薬品安全性評価学」、「病態栄養管理学」、「臨床推論Ⅰ」などの講義科目の他に、TDM（Therapeutic Drug Monitoring）や処方解析などを扱う演習科目（「実務実習事前学習Ⅰ・Ⅱ」、計5単位）を含み、そこに「実務実習事前実習」（3単位）と「実務実習」（20単位）が加わった15科目39単位から構成されている。

大学独自の教育として、世の中を取り巻くさまざまな話題、課題、見解などについて、豊富な知識と的確な見識を持って行動できる人材を育てるプログラムを実施している。「人間と薬学Ⅰ」では、教員が担当するアドバイザー制度を活用して各アドバイザーの下でグループ討論を行い、早期臨床体験に向けた準備と体験後の総括を行っている。また「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、約20名を定員とした少人数クラスで実施し、人文科学や社会科学に関するもの、多職種連携教育やデジタルセラピューティクスなど、多様で、特色あるテーマを取り上げ、学生が自由に選択できるようにしている。4年次に分科した後は、学科別のプログラムが編成されている。

問題解決能力の醸成のための教育は、低学年次（1～3年次）では基本的な知識・技能・態度を習得し、高学年次（4～6年次）で、基本的知識・技能・態度に基づいた実践的な問題発見・解決能力を効果的に醸成する学習プロセスとなっている。このようにカリキュラムは体系的に整理され、効果的に編成されている。

「DPを基盤とした卒業コンピテンスとコンピテンシー」及び「各コンピテンシーの達成レベル」を設定し、年次進行に伴う単位修得との関連性を「授業計画」（シラバス）やガイダンス、ホームページを通じて学生に周知していることは評価できる。ラーニングマップ、及び10の資質との関連性も含めたカリキュラムマップが作成され、シラバスに掲示するなど周知が図られている。また、DPとの関連性も含めたカリキュラム・ツリーもカラ

一でわかりやすく作成され、ホームページで公開し、スマートフォン等で確認できるようにしている。

課題研究は、4～6年次必修の実験研究コース及び調査研究コースを設定している。調査研究コースは、薬学教育評価機構による第1期の評価を受け、8単位から12単位として、実験研究コースと同じにし、さらに改善報告に対するコメントに基づいて調査研究コースの構成を基礎調査（2単位）、アドバンス調査（4単位）、研究計画・論文作成・発表（6単位）に変更している。しかし、評価対象年度の2022年度の5及び6年生は変更前のプログラムで実施されており、調査研究コースでは、調査研究に関わる単位数は4単位と問題解決能力醸成に係る単位数が少ない状態が続いている。2022年度の4年生より変更後のプログラムで実施しているものの、実質的な課題研究は6単位であり、基礎調査（2単位）、アドバンス調査（4単位）の実施内容、並びに評価方法についてさらに工夫して、課題研究に有効に繋げるカリキュラムとすることが望まれる。5年次には、「専門科目Ⅱ」（5単位以上）、6年次の課題研究終了後には、最新の情報を含めて系統的に統合する「薬学アップデート」（3単位）、並びに薬学専門科目の知識を総合的に整理する「総合薬学演習Ⅰ」（6単位）、「総合薬学演習Ⅱ」（1単位）がある（基礎資料1）。

教務担当学科長の下に教務担当者連絡会を常設し、原則、隔週で開催しており、関連委員会と連携しながら教育課程を常時検証している。第1期の薬学教育評価機構の評価結果に対する改善も進められ、さらに、3年後の改善報告で指摘された点についても一層の改善に取り組んでいる。

このように薬学教育カリキュラムが、CPに基づいて構築されている。

（3-2）教育課程の実施

本項目は、おおむね適合水準に達しているが、履修要項にある成績評価基準に基づく成績評価について懸念される点が認められる。

各科目の学習目標をGIO、行動目標をSBOとして「授業計画」（シラバス）に明記し、それぞれに適切な学習方略が用いられている。「知識」を醸成する学習方略に位置づけられる講義では、科目ごとに「アクティブラーニングへの取り組み」、「授業で行っている工夫（思考力・判断力・表現力の向上に向けた取り組み）」、「準備学習（予習・復習等）」を「授業計画」（シラバス）に記載している。さらに「総合演習Ⅱ」（4年次）、「総合薬学演習Ⅰ・Ⅱ」（6年次後期）において基本事項の理解の確認、演習を行っている。

コアカリA・B分野の「技能・態度」については、ルーブリック評価表やリアクション

ペーパー、ポートフォリオなど様々なツールを利用した方略を用いている。コアカリ C・D・E 分野については、1 年次後期から 3 年次後期で実施する実験実習(12 実習、18 単位)では、レポート提出や個別あるいはグループ面談、中間試験や演習、実験結果の発表を実施し、工夫している。コアカリ F 分野の「実務実習事前実務学習 I・II」は主として「知識」が評価され、「実務実習事前実習」では主として「技能」が評価される。コアカリ G 分野については、4～6 年次に実施する「課題研究(卒論研究)」では、実験研究及び調査研究コースともに、全員に医療や薬学における位置づけの考察を含めた課題研究論文の作成と提出を課している。課題研究の評価として、課題研究論文発表会が、所属教室ごとに、口頭発表形式で実施されている。

実務実習は、病院・薬局実務実習運営委員会が中心となり、「薬学実務実習に関するガイドライン」に準拠して実施されている。実習施設に対しては、年度末の第 1 期の開始直前に当該年度の実務実習についての説明会を実施し、大学が薬局・病院と連携して作成した実務実習実施計画書を共有している。その達成度については定期的にルーブリック評価などによるパフォーマンス評価を行っている。

「ゼミナール I・II・III」では、薬学、医療に関する多様なテーマについて少人数で、講義、演習形式で実施し、学生同士のグループワークや調査、発表の機会を設けている。各ゼミナールでの学生の取り組みや評価を、授業支援システムのゼミナールカルテ機能を活用して統合し、低学年次の問題解決能力醸成のための横断的な方略として 2022 年度から実施している。さらに、課題研究においてルーブリック評価された情報、及び、主査、副査のコメント、指導教員の審査要旨が「卒論ディプロマ・サプリメント」に記載され、卒業時までフィードバックするなど学生の資質・能力の向上に資する評価方法の開発を順次行っている。以上のように、CP に基づいた教育、評価が適切に行われていると判断される。しかし「卒論ディプロマ・サプリメント」における課題研究に対する主査、副査のコメントの記載が半数程度であり、本システムをさらに有効に活用することが望まれる。

各科目において、成績評価の方法が設定され、シラバスには知識、技能、態度、並びにパフォーマンスに分けて明記されている。成績評価基準については「授業計画」(シラバス)の冒頭の「履修要項」に記載している他、学生が常時閲覧可能な授業支援システムにも掲載している。さらに年度初めの教務ガイダンス等で学生に周知している。課題研究は、指導教員及び副査が課題研究ルーブリック評価表に基づき評価している。このルーブリック表は、課題研究のガイダンス時に学生に周知されている。

各科目の成績評価は、「成績評価の根拠のわかる項目別配点表」、「点数分布表」、「成績分

布」、及び「評価基準」を明記している。しかし、定期試験結果の評価において、履修要項にある成績評価基準と一致しない科目が散見され、さらに「総合演習Ⅱ」、「総合薬学演習Ⅰ及びⅡ」では、科目独自の評価基準を設けている。履修要項に成績評価基準をより明確に記載し、それに従った評価を適切に行うように改善することが必要である。実務実習に関しては、指導薬剤師の評価を参考に病院・薬局実務実習評価委員会が実務実習の成績評価を行っている。

学生による試験結果の閲覧は、キャンパスライフ支援システム（Web）で可能としている。成績通知書は、アドバイザー教員から、学生一人ひとりに手渡される。試験問題に関して疑問点がある場合は疑義照会の場を設けており、掲示により周知を図り、丁寧に対応している。しかし、成績評価に対する異議の申立ての窓口は現在教科担当教員だけとなっているため、教科担当教員以外の教職員が審査、対応する体制の構築が必要である。

1～3年次の進級基準は、必修科目（講義科目）の未修得単位数が累積5単位以内であり、かつ全実習科目の単位を修得していることと規定している。4年次から5年次への進級には、4年次までのすべての科目の単位を修得し、かつ共用試験（CBT:Computer Based TestingとOSCE: Objective Structured Clinical Examination）に合格していることを必要としている。進級基準については、年度初めの教務ガイダンスにおいて、「授業計画」（シラバス）を用いて繰り返し説明している。留年者には、年度初めに留年者ガイダンスを実施している。留年者の「単位先取り」は認めておらず、各学年次で履修成果が一定水準に達していない学生が上位学年配当の授業科目を履修することは認めていないが、聴講は認めている。

進級判定は、薬学事務課において各教員から提出された成績評価結果に基づき、学生ごと、科目ごとの単位修得状況を成績一覧として作成し、この資料を基に年度末の教授総会（進級判定会議）にて審議して、年次進級の可否を決定している。このように進級が公正かつ厳格に判定されている。

卒業認定の判定基準は、「東京薬科大学学部学則」、「東京薬科大学学位規程」及び「東京薬科大学学位規程施行細則」に、学士課程の認定基準として厳格に定められており、学士（薬学）の卒業認定は、薬学部で6年以上在学し、「東京薬科大学学部学則」第54条に定めた単位（186単位以上）を修得した者が受けることができる。「卒業に必要な単位数」及び「年次別・学科別授業科目単位配分表」を「授業計画」（シラバス）に記載し、年度初めのガイダンスで卒業までの単位認定について周知を徹底している。特に6年次生に対しては、年度初めの他、計3回のガイダンスを実施し、卒業認定の判定基準について周知徹底

を図っている。

卒業までの過程で教育のアウトカムを評価可能にする「卒業に必要な能力（卒業コンピテンシ）」と「具体的な能力（コンピテンシー）」についての評価は、単位取得状況及び課題研究のルーブリック評価をもとに実施しており、ディプロマ・サプリメントとして学生にフィードバックされている。

6年次前期までの179単位と、6年次の後期の「総合薬学演習Ⅰ」（6単位）及び「総合薬学演習Ⅱ」（1単位）を合わせて186単位以上の修得を卒業要件としている。「総合薬学演習Ⅱ」の総括試験は、本試験（1月）、並びに再試験（2月）から構成され、2月上旬の教授総会で成績を評価し、修了判定基準に従い卒業者を決定している。

履修方法については、「授業計画」（シラバス）において履修要項としてまとめられており、年度初めに学年ごとに実施される教務ガイダンスで周知している（資料4-1、資料151）。入学直後の4月初旬と10月にそれぞれ1年生全員を対象にプレースメントテストⅠ・Ⅱ（化学、生物、物理・数学）を実施し、低成績者に対しては、補講プログラム（計12コマ）への出席を義務付け、学習支援を行っている。

アドバイザー教員が中心となって、個々の学生の学習及び履修をサポートしている。実務実習に関しては、「薬学実務実習に関するガイドライン」を踏まえ、「実務実習事前教育」を実習期（1～2期、2～3期、3～4期）ごとに実習生を対象に開催し、実習への心構えや実習の日報、週報の入力指導、注意点などの指導を行っている。以上のように、履修指導は適切に行われている。留年者、卒業延期者にも独自のガイダンスを実施し、履修指導を行っていることを大学からの回答で確認した。

（3-3）学修成果の評価

本項目は、おおむね適合水準に達しているが、年次的な学修成果の評価方法について懸念される点が認められる。

卒業コンピテンシとコンピテンシーを設定し、コンピテンシーの達成レベルを4段階（ルーブリック型評価）で表して、年次進行に伴う単位修得との関連性を体系的にマトリックス表示することによって、学生が身につけるべき資質・能力（学修成果）を獲得する過程を学生自身で把握できるようにしている。さらに2018（平成30）年度からは、1年、3年、6年次生を対象に、各卒業コンピテンシーの自己評価を実施している。知識に関する総合的な学修成果は、4年次及び6年次の総括（到達度）試験として総合演習Ⅱ試験（4年次後期）、総合薬学演習Ⅰ試験（6年次後期）、総合薬学演習Ⅱ試験（6年次後期）を実

施している。DPに掲げた学生が身につけるべき個々の資質・能力に関する学修成果は、4年～6年次に行う卒論研究の到達度評価に、学生の所属教室の主査及び異なる教室の副査によるルーブリック評価を導入することにより評価している。このように学修成果の評価に工夫が認められる。しかし、年次進行による単位取得と総合薬学演習により知識修得の確認をしているものの、それ以外の資質については、学生自身による自己評価と、課題研究でのルーブリック評価に限定されている。各資質の年次的な進行を教員が評価し、総合的な学修成果を適切に評価して教育課程の編成及び実施の改善・向上につなげ、教育プログラムを改善することが必要である。さらに学科ごとに設定されたDPに関する特徴的な資質についても評価することが望ましい。実務実習を履修するために必要な資質・能力は、薬学共用試験のCBT及びOSCEにより適切に評価されており、その合格基準及び結果は、東京薬科大学のホームページに掲載されている。

卒業コンピテンシーに対する学生の自己評価と成績分布に基づく学修成果を分析し、全教員に共有されるとともに、これらの質的・量的データを基に教育研究プログラムの改善に活かす試みが開始されている。今後さらに、教育課程の編成及び実施の向上に活用されることが期待される。

4 学生の受入れ

本項目は、適合水準に達している。

入学者選抜は、学長と学部長の監督の下で、入試担当主任（教員）が責任者となり、学部入試関連委員会委員（入試検討委員会、入学者選考委員会、入試出題委員会）及び入試センターの協力で実施している。合否判定はすべての入学試験において、学部入試選考委員会で合否判定案を作成し、学部教授会で厳正な審議を経て、学長及び常務理事と当該学部長よりなる入学者選考本部会議に諮り、その入試判定結果の適切性を検証し、合格者を最終決定している。

学力の3要素を多面的・総合的に評価するために、多角的な選抜方式で合格者を決定し、多様な人材を受け入れている。特に総合型選抜や学校推薦型選抜では、面接、小論文、調査書等での客観的で公平・公正な評価を導入し、医療人を目指すものとしての資質・能力を判定している。調査書、推薦書、志願者調書、小論文試験及び面接試験等では、いずれの判定指標も点数化することで客観的で公平・公正な評価ができるように努めている。しかしながら、一般選抜（A方式、B方式）では、学力の3要素のうち知識に偏った評価をしているので、学生の表現力や主体性について高校からの調査書に加えて評価する方法を

工夫することが望まれる。

受験に際して合理的な配慮が必要な受験生は、事前に入試センターへ相談するように募集要項に記載している。合理的な配慮が必要な受験者の希望を確認し、座席の配慮、別室受験等、公平性を保った入学者選抜の機会を提供している。

入学定員充足率の6年間平均は110.9%であり（基礎資料3-4、基礎資料4）、入学者数が入学定員と大きく乖離していない。しかし、2023年度の入学者は入学定員の131.9%と超過し、複数年で110%を上回っているため、合否判定方法等を見直し、適正な入学者数となるように改善することが望まれる。また、標準修業年限内の卒業者の割合は直近5年間の平均として76.4%であり、教育課程の検証とともに、入学者の選抜方法、定員等の検証もさらに進めることが望まれる。2024年度より男女別定員を廃止することが公表されているように、入試制度の見直しは実施されている。さらに2022年度には「転学部制度」が設立され、学部間の移動を可能にしている。「編入学」も認めているが、これまで定員に欠員がないために実績はない。

5 教員組織・職員組織

本項目は、適合水準に達している。

東京薬科大学は、求める教員像及び教員組織の編成方針を定め、学内に周知するとともに、ホームページ上で公開している。大学設置基準で求められる薬学部の教員数は63名（その内教授32名）、実務家教員数は11名に対し、教員数は、教授44名を含む134名、実務家教員は24名で、大学設置基準で求められている数を十分満たしている。また各職種の人数比率、教員の年齢構成に著しい偏りはなく、適切である。しかしながら、2022年5月時点での専任教員1名に対する学生数は20.1名と多く、学生数を10名以内とすることが望ましい。

薬学部教員は、教育上及び研究上の優れた実績を有するか、優れた知識・経験及び高度の技術・技能を有しており、かつ、その担当する専門分野に関する教育上の指導能力と高い見識があると認められる（基礎資料9）。必修科目は、すべて専任の教授または准教授が科目責任者として担当している。

薬学部の教員採用及び昇任は、「東京薬科大学薬学部教員選考規程」、「東京薬科大学薬学部教員選考基準」、「東京薬科大学薬学部教育専任教員選考基準」、「東京薬科大学薬学部教授選考に関する内規」、「東京薬科大学薬学部みなし専任教員規程」に基づいて行われている。特に、2022年には、若手研究者の登用比率及び若手研究者の育成、活躍推進の目標と

して「多様な人材活用を目的とした研究体制整備」を定め、公表していることは評価できる。教員の採用においては、教育業績及びその能力、研究業績及びその能力、人物、大学及び社会への貢献度を以って、教授会（人事）にて候補者を決定している。教授を含めた採用候補者について、教育研究審議会の承認を得た後、役員面接を経て任用、発令される。この過程を経ることで、人事の適切性、透明性を担保している。

各専任教員は毎年、「教育・研究等の活動記録及び自己点検・評価書」を作成し、自身の教育及び研究業績について評価している。2020年度より、研究・教育・大学運営に関する業績を点数化する自己評価方法も試験導入しており、各職階の平均点数を薬学部内で公開することにより、適切な自己評価を実践している。学内研究助成金である「萌芽的研究ユニット研究助成金」では、厳正な審査の下、若手教員に優遇配分し、若手教員の学内共同研究推進を支援している。さらに科学技術振興機構（JST）の次世代研究者挑戦的研究プログラムに採択され、博士課程大学院生の支援を行っている。このように、若手教員や博士課程大学院生を組織的に支援し、次世代を担う教員の養成に積極的に取り組んでいると評価できる。以上のように、教育研究上の目的に沿った教育研究活動の実施に必要な教員組織は適切に整備されている。

各教員の研究実績は、各研究室のホームページ、及びホームページ内の教員紹介ページから研究者情報データベースを介して教員個人の教育研究活動を積極的に広く発信している。

研究活動を行うための研究スペースは確保されており、さらに研究棟のリニューアル工事が行われている。研究費は、基本額、各学生の研究費並びに教育研究に対する貢献度を積算した額から各研究室の年間予算を定めて配分している。研究推進機構を設置し、共同研究センターを2020年度に立ち上げ、研究環境の整備に努めている。教員の講義・演習・実習に携わる週当たりの授業時間は、年間で平均5.2時間である（基礎資料7表1）。実務家教員ではその2倍ほどの授業時間となっている場合も見られるが、おおむね研究時間は確保されている。

毎年8月に全学FD（Faculty Development）ワークショップを開催し、教育研究活動の推進と能力の向上を図っている。また、各専任教員の上長に相当する教員が自己点検評価書を確認し、助言する体制が構築されている。さらに、東京医科大学病院の施設内に「西新宿臨床教育・研究センター」の開設や、臨床医療薬学センターの設立など、外部機関と種々の提携を締結し、次世代型の薬学教育・研究活動を行うための環境を積極的に整備していることは評価できる。

実務家教員は病院薬剤部と連携し、定期的に病棟活動を行うなど、積極的に臨床研修を行っている。臨床研修留学規程が制定され、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)等での研修を実施していることも評価できる。

薬学事務課においては、教育研究に関する諸問題について連携してその解決・改善に向けて取り組んでおり、教育研究活動の実施に必要な教員以外の職員組織は十分整備されている。以上のように、教育研究上の目的に沿った教育研究活動が適切に行われていると判断される。

6 学生の支援

本項目は、適合水準に達している。

東京薬科大学は、学生支援の方針を定めて、ホームページで周知している。学生サポートセンターは学生生活全般について所管し、学生生活に関する相談を受け付けている。「東京薬科大学学生相談室規則」に基づき、学生相談室及びハラスメント相談室を設置し、学生生活の手引き、パンフレット等により周知、利用を促進している。個々の学生に対しては、教員、4年次以降は所属する研究室の教員がアドバイザーとして、学習や学生生活面での支援、相談対応を行っている。このように学習・生活相談の体制は整備されている。

進路指導として、学年ごとにガイダンスを行うとともに、5年次には、インターンシップへの支援や、製薬企業の全面的支援による模擬ロールプレイ形式のMR (Medical Representative) 体感講座や説明会を行っている。さらに東薬進路支援システムの活用、学生向け支援テキスト「進路ガイド」「キャリアデザインノート」「キャリアハンドブック」を作成して、進路支援をしている。

教育や学生生活に関する全学的な学生の意見は、年2回開催される学生大会を通じて学生委員会に提出される。また、学生サポートセンター近くに「意見箱」も設置している。これらの寄せられた意見は学生委員会で対応を協議し、対応する体制が整備されている。

安全への配慮が必要な実験・研究に対しては、倫理的な側面も含めて、各実習教育並びに研究計画に対する厳密な審査や実習・研究遂行者への教育・訓練等を行っている。さらに、実習科目を通じて、安全に実習ができるよう、学生約150名に対して6～11名の教員とTA (Teaching Assistant) が対応している。学生が安心して教育研究活動や課外活動に専念できるように、「学生教育研究災害傷害保険 (学研災)」に加えて「学生教育研究賠償責任保険 (学研賠)」も一括加入している。

4種抗体価検査、B型肝炎抗体価の検査 (基礎資料 10)、季節性インフルエンザワクチ

ンの学内接種（任意）を実施している。4年次以上の該当する学生に対して、年2回、有機溶剤健康診断、特定化学物質健康診断、電離放射線健康診断の特殊健診を実施している。なお、全学生を対象とした定期健康診断を年1回実施している（基礎資料10）が、受診率は高いものの100%になるようにさらに改善が望まれる。

学生への経済的支援制度として、独自の奨学金制度、日本学生支援機構の奨学金、自治体や各種団体の奨学金を紹介している。学習に配慮を希望する学生に対しては、「障害のある学生への修学等の支援に関する規程」に基づき、障害学生修学支援委員会、学生サポートセンター、学部、保健室等関連する部署が連携する体制を整備している。また、大地震を想定した避難訓練を実施している。事故対応マニュアル、避難経路、地震等の対応マニュアルも整備されている。さらに全ての事務職員には上級救命講習の受講を義務付けている（追加53、追加54、追加55、追加56、追加57、追加58）。このように、学生が安全に、安心して学習に専念できる体制は適切に整備されている。

7 施設・設備

本項目は、適合水準に達している。

東京薬科大学の基本方針の一つとして「学生中心のより良い教育環境を提供し、学生の学ぶ権利を尊重する。」と定め、さらに教育研究環境整備に関する方針を「東京薬科大学 教育研究環境整備の方針」として明確に示し、ホームページにおいて広く公開している。

教育研究活動の実施においては、十分な数の講義室、実習室、自習室が設けられ、ネットワーク環境やICT機器の整備状況も良好である。東京都下で最も広い面積を持つ薬用植物園を有し、学内はバリアフリーの対応がなされている。最新の研究開発プロジェクトに必要な先端の大型測定機器、実験動物施設、薬用植物園、RI共同実験室、中央分析センター、バイオセーフティ実験室、情報教育研究センター、各種共同機器施設等、研究推進に必要な設備・施設も整備されている。図書館の座席数は、学生収容定員数3,616人に対して、565席(15.6%)である（基礎資料12）。2022年5月現在の蔵書数は10万冊を超え、定期刊行物（国内外）類、視聴覚資料、電子ジャーナルなど充実している（基礎資料13）。定期試験期間中は開館時間を1時間延長し、学習環境の充実を目指している。食堂と談話室を兼ね備えた学生会館は、1階と2階を合計して1,200席ある。このように、教育研究上の目的に沿った教育研究活動の実施に必要な施設、設備が整備されている。さらに、学生からの意見も取り上げ、学習環境の改善を図っている。また、これからの30年の礎となる教育研究環境を創出するため、2018（平成30）年度から大規模改修工事を進めている

ことは評価できる。

8 社会連携・社会貢献

本項目は、適合水準に達している。

東京薬科大学の基本方針として「地域及び職域の教育機関として医療機関及び研究機関との連携を密にして、地域及び職域に貢献できる学校経営に努めます。」と定めている。これに基づき、2019年には、「社会連携・社会貢献に関する方針」を定め、2022年には「学校法人東京薬科大学事業計画（2022（令和4）年度）」において、社会連携・社会貢献の充実を挙げるなど、社会連携・社会貢献に積極的に取り組んでいる。

薬学部は、公益財団法人日本薬剤師研修センターの研究会実施機関登録を受け、一般社団法人東京薬科大学同窓会と共催して薬剤師の卒後教育、生涯教育を年6回行っており、毎回200～300人の薬剤師が参加している。産業界及び地域の関係団体等と協定を締結して、地域医療の課題解決や、医療・医薬品情報の適切な提供と医療人材の育成に積極的に取り組んでいることは評価できる。特に、八王子市及び一般社団法人八王子薬剤師会と「災害対策医薬品供給車両（モバイルファーマシー）の運用に関する連携協定」を締結し、活動していることは、災害医療の課題解決に向けた特徴ある取り組みである。また、学校薬剤師の活動も八王子薬剤師会と連携して支援している。特に薬物乱用防止教室では、教員のみならず学生も参画している。研究においても、企業等外部機関との共同・受託研究が行われている。このように医療・薬学の発展、薬剤師の資質・能力の向上に積極的に貢献している。

新型コロナウイルス感染拡大に対する地域貢献活動として、2020年度からPCR検査を受託し、さらに2021年度からは、文部科学省からの大型補助金を得て高度で多機能なPCR検査センターを設置している。このように地域における保健衛生の保持・向上にも貢献している。

国際交流として、大学間協定による教員、学生の海外研修など国際交流に積極的に取り組んでおり、実際に、教員の海外留学も盛んである。このように、医療及び薬学における国際交流の活性化に努めている。評価対象年度では英文のホームページは未だ不十分とされていたが、2023年度には整備が進められている。

IV. 大学への提言

1) 長所

1. 「DPを基盤とした卒業コンピテンシとコンピテンシー」及び「各コンピテンシーの達成レベル」を設定し、年次進行に伴う単位修得との関連性を「授業計画」(シラバス)やガイダンス、ホームページを通じて学生に周知していることは評価できる。(3. 薬学教育カリキュラム 3-1 教育課程の編成)
2. 若手研究者の登用比率及び若手研究者の育成、活躍推進の目標を定めている点は評価できる。(5. 教員組織・職員組織)
3. 若手教員や博士課程大学院生を組織的に支援し、次世代を担う教員の養成に積極的に取り組んでいると評価できる。(5. 教員組織・職員組織)
4. 外部機関と種々の提携を締結し、次世代型の薬学教育・研究活動を行うための環境を積極的に整備していることは評価できる。(5. 教員組織・職員組織)
5. 臨床研修留学規程が制定され、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 等での研修を実施していることは評価できる。(5. 教員組織・職員組織)
6. 産業界及び地域の関係団体等と協定を締結して、地域医療の課題解決や、医療・医薬品情報の適切な提供と医療人材の育成に積極的に取り組んでいることは評価できる。(8. 社会連携・社会貢献)

2) 助言

1. 各学科のカリキュラム・ポリシーの冒頭に示された薬剤師養成に係る記述(・・・薬剤師の養成)がそれぞれの学科のディプロマ・ポリシー(・・・薬剤師としての素養を身につけている)と整合性が取れていない部分があり、ディプロマ・ポリシーとの関係が理解しにくいので、整合性が取れるように改善することが望まれる。(1. 教育研究上の目的と三つの方針)
2. アドミッション・ポリシーでは、それぞれの入試方式ごとに、求める学生像と、それをどのように評価・選抜するかについても具体的に記載することが望まれる。(1. 教育研究上の目的と三つの方針)
3. 各種委員会の活動報告書を精査するのが学部長一人であり、より効果的に点検・評価を行える体制の構築が望まれる。(2. 内部質保証)
4. 調査研究コースの実質的な課題研究は6単位であり、実験研究コースの12単位に比べて少なく、基礎調査(2単位)、アドバンス調査(4単位)の実施内容、並びに評価方

法についてさらに工夫して、課題研究に有効に繋げるカリキュラムとすることが望まれる。(3. 薬学教育カリキュラム 3-1 教育課程の編成)

5. 「卒論ディプロマ・サプリメント」における課題研究に対する主査、副査のコメントの記載が半数程度であり、本システムをさらに有効に活用することが望まれる。(3. 薬学教育カリキュラム 3-2 教育課程の実施)
6. 学科ごとに設定されたディプロマ・ポリシーに関する特徴的な資質についても評価することが望ましい。(3. 薬学教育カリキュラム 3-3 学修成果の評価)
7. 一般選抜(A方式、B方式)では、学力の3要素のうち知識に偏った評価をしているので、学生の表現力や主体性について高校からの調査書に加えて評価する方法を工夫することが望まれる。(4. 学生の受入れ)
8. 入学定員充足率が複数年で110%を上回っているため、合否判定方法等を見直し、適正な入学者数となるように改善することが望まれる。(4. 学生の受入れ)
9. 標準修業年限内の卒業者の割合は直近5年間の平均として76.4%であり、教育課程の検証とともに、入学者の選抜方法、定員等の検証もさらに進めることが望まれる。(4. 学生の受入れ)
10. 2022年5月時点での専任教員数は134名であり、この時点での在籍学生数を専任教員数で除した学生数は、専任教員1名に対して20.1名と多く、学生数を10名以内とすることが望ましい。(5. 教員組織・職員組織)
11. 定期健康診断を年1回実施しているが、受診率は高いものの100%になるようにさらに改善が望まれる。(6. 学生の支援)

3) 改善すべき点

1. カリキュラム・ポリシーにおいて、教育の方法、学修成果の評価については、科目ごとの評価方法を総括的に記載しているだけで、資質・能力ごとの評価方法、特に学科ごとに特徴的な資質を評価する方法については記載が不十分であり、改善する必要がある。(1. 教育研究上の目的と三つの方針)
2. アセスメント・プランは作成されたばかりであり、客観的な評価・測定結果を教育課程の編成及び改善・向上に活用する体制の構築は未だ不十分と言える。今後適切な体制の構築を進め、教育課程の編成及び改善・向上を図ることが必要である。(2. 内部質保証)
3. 定期試験結果の評価において、履修要項にある成績評価基準と一致しない科目が散見

され、さらに「総合演習Ⅱ」、「総合薬学演習Ⅰ及びⅡ」では、科目独自の評価基準を設けている。履修要項に成績評価基準をより明確に記載し、それに従った評価をすることが必要である。(3. 薬学教育カリキュラム 3-2 教育課程の実施)

4. 成績評価に対する異議の申立ての窓口は現在教科担当教員だけとなっているため、教科担当教員以外の教職員が審査、対応する体制の構築が必要である。(3. 薬学教育カリキュラム 3-2 教育課程の実施)
5. 学修成果の評価として、年次進行による単位取得と総合薬学演習により知識修得の確認をしているものの、それ以外の資質については、学生自身による自己評価と、課題研究でのルーブリック評価に限定されている。各資質の年次的な進行を教員が評価し、総合的な学修成果を適切に評価して教育課程の編成及び実施の改善・向上につなげ、教育プログラムを改善することが必要である。(3. 薬学教育カリキュラム 3-3 学修成果の評価)

V. 認定評価の結果について

東京薬科大学薬学部（以下、貴学）は、2022年度に本機構の、「薬学教育評価 評価基準」（以下、「評価基準」）に基づく6年制薬学教育プログラムの自己点検・評価を実施し、「薬学教育評価申請書」を本機構に提出しました。

I～IVに記載した内容は、貴学が自己点検・評価の結果により作成し本機構に提出した「調書」（「自己点検・評価書」及び「基礎資料」）と添付資料に基づいて行った本評価の結果をまとめたものです。

1) 評価の経過

本評価は、本機構が実施する研修を修了した4名の評価実施員（薬学部の教員3名、現職の薬剤師1名）で構成される評価チームによるピア・レビューを基本にして行いました。

まず、書面調査として、個々の評価実施員が「調書」に基づいて「評価基準」の達成状況を検証して所見を作成し、それらを評価チーム会議で検討して評価チームの所見をとりまとめました。評価チームは、書面調査の所見を整理した結果に貴学への質問事項などを加えた「評価チーム報告書案」を作成し、これを貴学に送付して、「評価チーム報告書案」に対する確認および質問事項への回答（第1回目のフィードバック）を求めました。

評価チームは、貴学からの回答と追加された資料、並びに「評価チーム報告書案」に対する意見を検討して「評価チーム報告書案」の所見を修正し、その結果を踏まえて、訪問調査を実施しました。訪問調査では、書面調査では十分に評価できなかった点を含めて貴学の6年制薬学教育プログラムの状況を確認することを目的に、「訪問時間閲覧資料」の閲覧、施設・設備見学と授業参観、大学関係者・若手教員との意見交換、並びに学生との面談を行いました。訪問調査を終えた評価チームは、訪問調査で得た情報と書面調査の所見を総合的に検討し、「評価チーム報告書」を作成して評価委員会に提出しました。

「評価チーム報告書」の提出を受けた評価委員会は、評価チームの主査を含めた拡大評価委員会を開いて、評価チームの判断を尊重しつつ、「評価結果」に大学間での偏りが生じないことに留意して「評価チーム報告書」の内容を検討し、「評価報告書（評価委員会案）」を作成しました。次いで、評価委員会は「評価報告書（評価委員会案）」を貴学に送付し、事実誤認あるいは誤解を生じる可能性がある表現などに対する「意見申立て」（第2回目のフィードバック）を受けました。

評価委員会は、申立てられた意見を検討して「評価報告書（評価委員会案）」を修正するための拡大評価委員会を開催し、「評価報告書原案」を作成し総合評価評議会に提出しました。

本機構は、外部有識者を含む評価の最高意思決定機関である総合評価評議会において「評価報告書原案」を慎重に審議し、「評価報告書」を決定し、理事会に報告しました。

本機構は、「評価報告書」を貴学に送付するとともに社会に公表し、文部科学省及び厚生労働省に通知します。

なお、評価の具体的な経過は「3）評価のスケジュール」に示します。

2) 「評価結果」の構成

「評価結果」は、「Ⅰ．総合判定の結果」、「Ⅱ．総評」、「Ⅲ．『項目』ごとの概評」、「Ⅳ．大学への提言」で構成されており、それらの意味は以下の通りとなっています。

「Ⅰ．総合判定の結果」には、貴学の薬学教育プログラムが総合的に本機構の「評価基準」に適合しているか否かを記しています。

「Ⅱ．総評」には、本機構の「評価基準」に対する貴学の達成状況を簡潔に記しています。

「Ⅲ．『項目』ごとの概評」には、「評価基準」を構成する項目1、2、3-1、3-2、3-3、4、5、6、7、8について、【基準】に対する達成状況の概要を記しています。

「Ⅳ．大学への提言」は、「評価結果」に関する本機構からの特記事項で、「1）長所」、「2）助言」、「3）改善すべき点」に分かれています。

「1）長所」は、貴学の特色となる優れた取り組みと評価されたものを記載しています。

「2）助言」は、「評価基準」を達成する最低要件は満たしているが、目標を達成するためには改善が望まれることを示すものです。「助言」の内容に対する改善の実施は貴学の判断に委ねますが、個々の「助言」への対応状況についての報告書の提出が必要です。

「3）改善すべき点」は、「評価基準」が求める最低要件を満たしていないと判断された問題点で、貴学に対して「評価基準」を達成するための改善を義務づけるものです。「改善すべき点」については、早急に改善に取り組み、「評価基準」を達成したことを示す成果を「提言に対する改善報告書」として所定の期限内に本機構に提出することが必要です。

なお、本「評価結果」は、貴学の「自己点検・評価書」及び「基礎資料」に記載された2022年度における薬学教育プログラムを対象にして、書面調査並びに訪問調査において確認した状況に基づいて作成したものであるため、現時点ではすでに改善されている点が提言の指摘対象となっている場合があります。また、別途提出されている「調書」の誤字、脱字、

数値の誤記などに関する「正誤表」は、本「評価報告書」及び「調書」を本機構のホームページに公表する際に、合わせて公表します。

3) 評価のスケジュール

貴学の薬学教育プログラム評価を以下のとおり実施しました。

- 2022年1月24日 本評価説明会*を実施
- 2023年3月7日 貴学より調書の草案の提出。機構事務局は内容を確認
- 3月29日 機構事務局より貴学へ草案の確認終了を通知
- 4月4日 貴学より「薬学教育評価申請書」の提出
- 4月25日 貴学より評価資料（調書及び添付資料）の提出
評価実施員は評価所見の作成開始
- ～6月9日 主査は各実施員の評価所見を基に「評価チーム報告書案」の原案を作成
- 6月14日 評価チーム会議を開催し、主査の原案を基に「評価チーム報告書案」を作成
- 7月25日 評価チームは「評価チーム報告書案」を機構事務局へ提出
機構事務局より貴学へ「評価チーム報告書案」を送付
- 8月14日 貴学より「「評価チーム報告書案」に対する確認および質問事項への回答」の提出
- 9月13日 評価チーム会議*を開催し、貴学からの「「評価チーム報告書案」に対する確認および質問事項への回答」を検討し、訪問時の調査項目を確認
- 10月2日・3日 貴学への訪問調査実施
- 10月24日 評価チーム会議*を開催し、「評価チーム報告書」を作成
- 11月10日 「評価チーム報告書」を評価委員会へ提出
- 11月29日・30日 評価委員会（拡大）を開催し、「評価チーム報告書」を検討
- 12月18日 評価委員会（拡大）**を開催し、「評価報告書（評価委員会案）」を作成
- 2024年1月4日 機構事務局より貴学へ「評価報告書（評価委員会案）」を送付
- 1月18日 貴学より「意見申立書」の提出
- 2月5日 評価委員会（拡大）**を開催し、意見申立てに対する「回答書」及び「評価報告書原案」を作成
- 2月14日 機構事務局より貴学へ意見申立てに対する「回答書」を送付
- 2月20日 「評価報告書原案」を総合評価評議会へ提出
- 3月1日 総合評価評議会を開催し、「評価報告書」を決定
- 3月18日 機構事務局より貴学へ「評価報告書」を送付

*はオンラインで、**は対面とオンラインのハイブリッド形式で実施しました。

4) 提出資料一覧

(調書)

自己点検・評価書

薬学教育評価 基礎資料

(根拠資料)

提出資料一覧 (様式2-1、 2-2) を以下に転載

追加資料一覧 を以下に転載

(様式2-1)

薬学教育評価 提出資料一覧

大学名 東京薬科大学

資料 No.	必ず提出する添付資料	自由記入欄 (当該項目の控など)
資料 1	東京薬科大学入学案内	基準 7-1
資料 2	CAMPUS LIFE2022	基準 1-1 基準 6-1
資料 3	東京薬科大学薬学部 履修要綱※資料 5-1 に収載	基準 3-2-2
資料 4-1	新入生および2-6年4月ガイダンス 資料	基準 1-1 基準 1-2 基準 3-2-3 基準 3-2-4 基準 3-2-5 基準 7-1
資料 4-2	東薬生のファーストステップ	基準 3-2-5
資料 5-1	2022 年度薬学部シラバス	基準 1-1 基準 1-2 基準 1-3 基準 3-1-1 基準 3-2-1 基準 3-2-2 基準 3-2-3 基準 3-2-4 基準 3-2-5 基準 3-3-1 基準 5-1 基準 6-1
資料 5-2	2022 年度総合薬学演習 I シラバス ※冊子発行後、当該科目のみ内容の差し替えが生じたため掲載	基準 1-2 基準 3-1-1 基準 3-2-1 基準 3-2-5 基準 5-1
資料 5-3	2022 年度前期ゼミナールシラバス (2 年生用)	基準 3-1-1 基準 3-2-1

資料 5-4	2022 年度後期ゼミナールシラバス (1 年生用、2 年生用)	基準 3-1-1 基準 3-2-1
資料 5-5	2022 年度 5 年次調査研究コースコースワークプログラムシラバス	
資料 6	2022 年度薬学部時間割表	基準 3-2-1
資料 7	2022 年度実務実習概略評価表	
資料 8	2022 年度薬学部学生募集要綱	基準 1-2 基準 4-1

資料 No.	根拠となる資料・データ等 (例示)	自由記入欄 (当該項目の控など)
資料 9	東京薬科大学学則	基準 1-1 基準 1-2 基準 1-3 基準 3-2-4
資料10	本学 HP 教育研究上の目的,3 つの方針 https://www.toyaku.ac.jp/about/faculty-policy/	基準 1-1 基準 1-2 基準 4-1
資料11	本学 HP)自己点検・評価、内部質保証 https://www.toyaku.ac.jp/about/disclosure/evaluation/	基準 1-1 基準 2-1 基準 2-2 基準 5-1 基準 6-1 基準 7-1 基準 8-1
資料12-1	3 つの方針検討委員会 委嘱揭示	基準 1-2 基準 1-3
資料 12-2	東京薬科大学薬学部教授総会運営内規	基準 1-2
資料13	2022-12 教授総会議事要旨 (2022.12.14) 【抜粋】	基準 1-2
資料14	2022 年度父母懇談会 説明会資料	基準 1-2
資料15	FD・SD 研修会ポスター	基準 1-3
資料16-1	平成 28 年度 3 つの方針検討委員会議事録	基準 1-3
資料 16-2	東京薬科大学教授会規程	基準 1-3
資料17	2022-09 教授会 (定例) 議事要旨 (2022.09.21) 【抜粋】	基準 1-3
資料18	東京薬科大学三つの方針 (ポリシー) 策定のための方針	基準 1-3
資料19	2022-13 教授会 (定例) 議事要旨 (2022.11.09) 【抜粋】	基準 1-3
資料 20	2022 年度第 08 回教育研究審議会議事要旨 20221202 【抜粋】	基準 1-3

資料 21	2022 年度薬学部各種委員会一覧表	基準 2-1 基準 5-2
資料 22	2021 年度薬学部委員会活動報告書（各委員会提出時）	基準 2-1
資料 23	2021 年度委員会活動報告一覧	基準 2-1 基準 2-2
資料 24	2021 年度委員会活動報告総括	基準 2-1
資料 25	学校法人東京薬科大学自己点検・評価、内部質保証に関する規程	基準 2-1 基準 2-2
資料 26	薬学部内部質保証体制図 https://www.toyaku.ac.jp/pharmacy/education/quality-assurance/	基準 2-1
資料 27	東京薬科大学アセスメントプラン https://www.toyaku.ac.jp/pdf/%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E8%96%AC%E7%A7%91%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%80%80%E3%82%A2%E3%82%BB%E3%82%B9%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88%E3%83%97%E3%83%A9%E3%83%B3.pdf	基準 2-1
資料 28	NOCC 教育検査 パンフレット	基準 2-1
資料 29-1	NOCC 教育検査 結果分析レポート	基準 2-1
資料 29-2	PROG テストのご案内	基準 2-1
資料 30	AP 事業成果報告書_H28 年度(抜粋)	基準 2-1 基準 3-3-1
資料 31	AP 事業報告書（H28~R1 年度）【抜粋】	基準 2-1 基準 3-3-1
資料 32	本学 HP)ニュース&トピックス - 2022 年度 東京薬科大学 https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/?cat=cat03	基準 2-1
資料 33	ディプロマサプリメント例示 https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/ap/rubric.html	基準 2-1 基準 3-2-1 基準 3-2-4 基準 3-3-1
資料 34	学校法人東京薬科大学自己点検・評価規程	基準 2-1
資料 35	薬学教育評価 評価報告書（平成 27 年度） https://www.toyaku.ac.jp/about/disclosure/evaluation/pdf/yakugakuhyouka.pdf	基準 2-1 基準 3-1-1
資料 36	薬学教育評価 提言に対する改善報告書（平成 27 年度）	基準 2-1 基準 2-2
資料 37	大学基準協会 東京薬科大学に対する大学評価（認証評価）結果	基準 2-1

資料 38	本学 HP 点検評価結果公表状況 https://www.toyaku.ac.jp/about/disclosure/evaluation/	基準 2-1
資料 39	本学 HP 授業アンケート結果公表状況 https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/fd-sd/fd.html	基準 2-1
資料 40	2022 年度第 1 回薬学部自己評価・評価、内部質保証実施委員会_議事録【抜粋】	基準 2-2
資料 41	2022 年度第 2 回薬学部自己評価・評価、内部質保証実施委員会_議事録【抜粋】	基準 2-2
資料 42	2022 年度第 3 回薬学部自己評価・評価、内部質保証実施委員会_議事録【抜粋】	基準 2-2
資料 43	「とうやく」2019 年 1 月 414 号 p18 ページ～20	基準 3-1-1
資料 44	「平成 30 年度東京薬科大学教育改革推進事業」推薦書	基準 3-1-1
資料 45	2022 年度 人間と薬学ポートフォリオ	基準 3-1-1
資料 46	薬学教育モデル・コアカリキュラムの SBOs (A～G)、薬学準備教育ガイドライン (X・Y) の該当状況	基準 3-1-1
資料 47	2022 年度後期ゼミナール講義日一覧 (1 年生)	基準 3-1-1 基準 3-2-1
資料 48	2022 年度前期・後期ゼミナール講義日一覧 (2 年生)	基準 3-1-1 基準 3-2-1
資料 49	ガイダンス資料 (2022 年度調査研究コースガイダンス)	基準 3-1-1
資料 50	UCSF_USC 説明会資料	基準 3-1-1
資料 51	東京薬科大学・中国中医研究院中薬研究所 覚書	基準 3-1-1
資料 52	東京薬科大学・中国中医研究院中薬研究所ダブルディグリー制度運用に関する覚書	基準 3-1-1
資料 53	東京薬科大学と嘉南薬理大学との学術交流協定書	基準 3-1-1
資料 54	2022 年度課題研究 (卒論) ガイダンス資料 2022 年 4 月 28 日	基準 3-1-1 基準 3-2-1
資料 55	2022 年度 薬学アップデート講義スケジュール	基準 3-1-1
資料 56	2022 年度 教務担当者連絡会 開催スケジュール	基準 3-1-1
資料 57	2021-10 教授総会議事要旨、資料 (2021.12.15)	基準 3-1-1
資料 58	2021-19 教授会 (定例) (2022.1.19) 議事要旨、資料	基準 3-1-1
資料 59	学部長諮問書	基準 3-1-1
資料 60	薬学部教務委員会 答申書	基準 3-1-1
資料 61	2022-28、29 薬学部本部室会 議事メモ【抜粋】	基準 3-1-1
資料 62	2022-16 教授総会議事要旨 (2023.03.22)【抜粋】	基準 3-1-1

資料 63	2021 年度委員会活動方針・計画・活動総括報告書（薬学部 FD 委員会）	基準 3-1-1
資料 64	2021 年度委員会活動方針・計画・活動総括報告書（自己点検・評価、内部質保証実施委員会）	基準 3-1-1
資料 65	教育・研究等の活動記録および自己点検・評価書	基準 3-1-1 基準 5-1 基準 5-2
資料 66	2022-7 教授総会議事要旨、資料（2022.9.21）	基準 3-1-1 基準 6-1
資料 67	2017（平成 29）年度時間割	基準 3-1-1
資料 68	2016（平成 28）年度教授総会資料：実習移行スケジュール表	基準 3-1-1
資料 69	2018（平成 30）年度シラバス（5・6 年） p30～31	基準 3-1-1
資料 70	「IV.大学への提言」に対する改善報告についての審議結果	基準 3-1-1
資料 71	2021-4 教授総会議事要旨、資料（2021.6.23）	基準 3-1-1
資料 72	改善 5-1 H29 年度シラバス 課題研究（調査研究コース） p192～194	基準 3-1-1
資料 73	人間と薬学 I 教員用ルーブリック評価表	基準 3-1-1
資料 74	人間と薬学 I アドバイザー説明会	基準 3-1-1
資料 75	主査・副査ルーブリック評価表	基準 3-1-1 基準 3-2-1
資料 76	主査・副査用課題研究論文評価表（サンプル）	基準 3-1-1
資料 77	2021-13 教授総会議事要旨、資料（2022.2.15）	基準 3-1-1
資料 78	2022 年度ゼミナールカルテ・修了証（教員用マニュアル）	基準 3-1-1
資料 79	2016 年度 授業計画（シラバス）（1・2 年） p12～15	基準 3-1-1
資料 80	2016 年度 授業計画（シラバス）（3～6 年） p12～15	基準 3-1-1
資料 81	2021-10 教授総会議事要旨、資料（2021.12.15）	基準 3-1-1
資料 82	2022 年度 課題研究論文発表会 日程・会場	基準 3-1-1 基準 3-2-1
資料 83	2022 年度課題研究論文題目一覧	基準 3-1-1
資料 84	2020 年度 第 1 回 教務担当者連絡会・国試対策委員会（合同開催）議事録、資料（2021.2.5）	基準 3-1-1
資料 85	2022 年度フィードバック講義の開講依頼	基準 3-2-1
資料 86	フィードバック講義時間割	基準 3-2-1
資料 87	2022 年度各実習実験書	基準 3-2-1
資料 88	実務実習先一覧（病院・薬局）	基準 3-2-1

資料 89	改訂コア・カリキュラム F 薬学臨床における評価（事前実務実習版）	基準 3-2-1
資料 90	2022 年度課題研究論文手引き	基準 3-2-1
資料 91	2022 年度課題研究論文審査要旨一覧	基準 3-2-1
資料 92	（教員用）2022 年度卒論提出、ルーブリック、ディプロマサブリメントマニュアル	基準 3-2-1
資料 93	2020 年度日本薬学教育学会発表要旨	基準 3-2-1
資料 94	薬学部研究年報	基準 3-2-1 基準 5-2
資料 95	2019-2022 学会発表における受賞者一覧	基準 3-2-1
資料 96	2022 年度東京薬科大学実務実習コーディネーターマニュアル	基準 3-2-1
資料 97	2022 年度教員コーディネーター表（病院・薬局）	基準 3-2-1
資料 98	GAKUEN トップページ	基準 3-2-1
資料 99	実務実習に伴う持病等申告書	基準 3-2-1
資料 100	実務実習持病対応メモ	基準 3-2-1
資料 101	実務実習持病連絡票	基準 3-2-1
資料 102	各種委員会開催履歴	基準 3-2-1
資料 103	病院・薬局実務実習委員会関連図	基準 3-2-1
資料 104	2022 年度東京薬科大学病院・薬局実務実習オンライン説明会	基準 3-2-1
資料 105	2022 年度病院・薬局実習ガイダンス資料（ガイダンス I、II、III）	基準 3-2-1 基準 3-2-5 基準 6-1
資料 106	2022 年度実務実習実施計画書 フォーマット（病院・薬局）	基準 3-2-1
資料 107	2022 年度実務実習スケジュール フォーマット（病院・薬局）	基準 3-2-1
資料 108	実務実習自己紹介書 フォーマット	基準 3-2-1
資料 109	実務実習プロフィール書 フォーマット	基準 3-2-1
資料 110	事前実習・学習内容	基準 3-2-1
資料 111	指定図書「症例から考える代表的な 8 疾患」	基準 3-2-1
資料 112	東京薬科大学薬学部 病院・薬局等における実習等誓約書	基準 3-2-1
資料 113	2022 年度 COVID-19 対策体調チェックシート フォーマット	基準 3-2-1
資料 114	トラブル対応メモ フォーマット	基準 3-2-1
資料 115	問題発生時報告書 フォーマット	基準 3-2-1
資料 116	実習生向けマニュアル（実務実習日報・週報・全体の振り返りシステム）	基準 3-2-1
資料 117	実習終了時評価表 フォーマット	基準 3-2-1

資料 118	実習生出欠表 フォーマット	基準 3-2-1
資料 119	実務実習欠席届 フォーマット	基準 3-2-1
資料 120	学生実習報告提出レポートサンプル	基準 3-2-1
資料 121	ゼミナールガイダンス説明資料	基準 3-2-1 基準 3-2-5
資料 122	ゼミナールガイダンス配布資料	基準 3-2-1 基準 3-2-5
資料 123	ゼミナールカルテ・ゼミナール修了証マニュアル	基準 3-2-1
資料 124	2022 年度総合演習Ⅱガイダンス資料 (2022.7.14)	基準 3-2-2 基準 3-2-3
資料 125	総合薬学演習Ⅰガイダンス資料 (2022.9.1)	基準 3-2-2 基準 3-2-4
資料 126	国試直前ガイダンス資料 (総合薬学演習Ⅱ試験実施について) (2022.11.15)	基準 3-2-2 基準 3-2-4
資料 127	2022 科目担当者確認表 (系別)	基準 3-2-2
資料 128	2022 年度前期/後期試験 (必修科目) 実施調査回答フォーム	基準 3-2-2
資料 129	2022 年度前期/後期試験 (選択科目) 実施調査回答フォーム	基準 3-2-2
資料 130	2022 年度薬学部前期/後期定期試験 時間割	基準 3-2-2
資料 131	2022 年度薬学部前期/後期追再試験 時間割	基準 3-2-2
資料 132	薬学部 定期試験監督実施要項	基準 3-2-2
資料 133	薬学部 定期試験 不正行為に対する処置 (薬学部)	基準 3-2-2
資料 134	項目別配点表 書式	基準 3-2-2
資料 135	前期試験の成績について 成績通知書	基準 3-2-2
資料 136	演習試験成績について (4・6 年)	基準 3-2-2
資料 137	成績発表について (前期・後期)	基準 3-2-2
資料 138	第 1~3 回総合演習Ⅱ試験 正解発表・疑義照会・成績結果について	基準 3-2-2
資料 139	2022 年度総合演習Ⅱ総括試験、総合演習Ⅱ追再試験について	基準 3-2-2
資料 140	総合薬学演習Ⅰ試験 正解発表・疑義照会・欠席届提出・成績結果について	基準 3-2-2
資料 141	総合薬学演習Ⅱ試験 疑義照会	基準 3-2-2
資料 142	2022 年度再履修科目履修方法一覧	基準 3-2-3
資料 143	2022 年度 1 年生試験ガイダンス資料	基準 3-2-3 基準 3-2-5
資料 144	2022 年度 1 年生試験ガイダンス確認テスト結果	基準 3-2-3

資料 145	2022-16 教授総会資料（進級判定資料別紙）（2023. 3. 22）【例示】	基準 3-2-3
資料 146	2022-16 教授総会資料（進級判定資料）（2023. 3. 22）【例示】	基準 3-2-3
資料 147	2022 年度薬学部アドバイザーマニュアル	基準 3-2-3 基準 3-2-5 基準 6-1
資料 148	東京薬科大学学位規程	基準 3-2-4
資料 149	東京薬科大学学位規程施行細則	基準 3-2-4
資料 150	総合薬学演習 I・II 試験及び課題研究（卒論）ガイダンス資料 （2022.4.28）	基準 3-2-4 基準 3-2-5
資料 151	2022 年度新学期ガイダンス一覧	基準 3-2-5
資料 152	2022-2 教授総会議事要旨・資料（2022.4.20）、2022-9 議事要旨 （2022.10.19）	基準 3-2-5
資料 153	2022 年度薬学ゼミナール生物補講日程表	基準 3-2-5
資料 154	対象学生記入のアンケート	基準 3-2-5
資料 155	人間と薬学 I・II ガイダンス資料	基準 3-2-5
資料 156	基礎実習ガイダンス資料	基準 3-2-5
資料 157	科別ガイダンス資料	基準 3-2-5
資料 158	卒論配属ガイダンス資料	基準 3-2-5
資料 159	就職ガイダンス資料	基準 3-2-5 基準 6-1
資料 160	2022 年度学習相談受付予定表	基準 3-2-5 基準 6-1
資料 161	2022 年度実務実習事前講座（プレ教育）資料	基準 3-2-5
資料 162	2022 年度病院・薬局実習オンライン説明会資料	基準 3-2-5
資料 163	実務実習オンライン報告会概要・発表者リスト	基準 3-2-5
資料 164	総合薬学演習 I 不合格者ガイダンス（12 月、2 月）	基準 3-2-5
資料 165	総合薬学演習 II 不合格者ガイダンス	基準 3-2-5
資料 166	薬学教育推進センター教員による個別面談日程表	基準 3-2-5
資料 167	聴講申請書（前期・後期）	基準 3-2-5
資料 168	2022 年度薬学共用試験 CBT 実施の手引き／実施マニュアル	基準 3-3-1
資料 169	2022 年度薬学共用試験 CBT 本試験受験生マニュアル	基準 3-3-1
資料 170	2022 年度薬学共用試験実施要項 2022.4	基準 3-3-1
資料 171	2022 年度東京薬科大学 OSCE 実施マニュアル	基準 3-3-1
資料 172	薬学共用試験の合格基準および結果 https://www.toyaku.ac.jp/pharmacy/education/training/	基準 3-3-1

資料 173	2021-6 教授総会議事要旨 (2021.08.25) 【抜粋】	基準 3-3-1
資料 174	2022 年教務ガイダンス (国試関係) 説明資料	基準 3-3-1
資料 175	アドバンスゼミナールⅣ開講について	基準 3-3-1
資料 176	アドバンスゼミナールⅣ ガイダンス説明資料	基準 3-3-1
資料 177-1	学校法人東京薬科大学学部入学者選考規程	基準 4-1
資料 177-2	東京薬科大学転学部規程	基準 4-2
資料 178	東京薬科大学薬学部教員選考基準	基準 5-1
資料 179	東京薬科大学薬学部教育専任教員選考基準	基準 5-1
資料 180	東京薬科大学薬学部教員選考規程	基準 5-1
資料 181	東京薬科大学薬学部教授選考に関する内規	基準 5-1
資料 182	東京薬科大学薬学部みなし専任教員規程	基準 5-1
資料 183	東京薬科大学教育研究審議会規程	基準 1-3 基準 5-1
資料 184	教育・研究等の活動記録ならびに自己点検・評価書 依頼文	基準 5-1 基準 5-2
資料 185	2021-14 教授総会資料 (2022.03.22) 教員評価平均	基準 5-1
資料 186	2021-14 教授総会議事要旨 【抜粋】 (2022.03.22)	基準 5-1
資料 187	萌芽的研究センターユニット研究助成金募集要項	基準 5-1 基準 5-2
資料 188	若手教員海外長期留学一覧 (2018-2022 年度)	基準 5-1 基準 5-2 基準 8-1
資料 189	東京薬科大学リサーチ・アシスタント規程、施行細則	基準 5-1
資料 190	本学 HP) BUTTOBE 特設ページ https://www.toyaku.ac.jp/research/buttobe/	基準 5-1
資料 191	本学プレ FD 案内メール	基準 5-1
資料 192	プレ FD 説明用スライドデータ	基準 5-1
資料 193	プレ FD 他大学プログラム案内メール	基準 5-1
資料 194	薬学部研究室ホームページ (応用生化学) https://www.ps.toyaku.ac.jp/ouyoseika/	基準 5-2
資料 195	本学 HP) 薬学部教員紹介ページ (高木教授) https://www.toyaku.ac.jp/pharmacy/labo/199900066-3450.html	基準 5-2
資料 196	萌芽的研究センターユニット研究助成金 実績一覧	基準 5-2
資料 197	本学 HP) 東京薬科大学の取組み https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/	基準 5-2

資料 198	本学 HP)多様な人材活用を目的とした研究体制整備について https://www.toyaku.ac.jp/pdf/fd4450ca1d39d891ca6cee1c56ee0b2b3f44bfa5.pdf	基準 5-1 基準 5-2
資料 199	本学 HP)FD 活動 https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/fd-sd/fd.html	基準 5-2
資料 200	2022 年度新任教員 FD ワークショップ_プログラム	基準 5-2
資料 201	実習科目・ゼミナールアンケート	基準 5-2
資料 202	2022-13 教授総会議事要旨 (2023.01.18) 【抜粋】	基準 5-2
資料 203	2022-14 教授総会議事要旨 (2023. 02. 09) 【抜粋】	基準 5-2
資料 204	本学 HP)公益財団法人がん研究会と東京薬科大学が連携協定を締結 https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/0130_5491.html	基準 5-2
資料 205	本学 HP)武田薬品工業と教育・研究に関する協定を締結 ～将来の地域医療を支える人材の育成を目指す～ https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2020/0924_4051.html	基準 5-2 基準 8-1
資料 206	本学 HP)東京薬科大学とくすりの適正使用協議会が協定を締結 https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/0725_5167.html	基準 5-2 基準 8-1
資料 207	本学 HP)東医大西新宿臨床教育・研究センター 開設 https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/0106_5399.html	基準 5-2 基準 8-1
資料 208	2022 年度薬学部出張先一覧	基準 5-2
資料 209	2022 年度学校薬剤師兼務一覧	基準 5-2
資料 210	東京薬科大学教員臨床研修留学規程	基準 5-2
資料 211	H30-24 教授会 (定例) (2019.2.27) 議事要旨 【抜粋】	基準 5-2
資料 212	臨床研修留学 実施状況	基準 5-2
資料 213	学校法人東京薬科大学組織職制規程	基準 5-2
資料 214	東薬ニュースレターNo148 2022 年 8 月号	基準 5-2
資料 215	東京薬科大学学生部規程	基準 6-1
資料 216	東京薬科大学学生委員会規則	基準 6-1
資料 217	東京薬科大学学生相談室規則	基準 6-1
資料 218	学生相談室のご案内	基準 6-1
資料 219	学生相談室だより (2022 年度)	基準 6-1
資料 220	2022-キャリアサポート年間スケジュール (1-5 年)	基準 6-1
資料 221	業界職種セミナー①-⑤ 学生向け揭示	基準 6-1
資料 222	2022MR 職体感セミナー 学生向け揭示	基準 6-1
資料 223	2022 病院合同フォーラム学生向け揭示	基準 6-1
資料 224	2022 企業フォーラム学生向け揭示	基準 6-1

資料 225	2022 薬局 Dgs 合同フォーラム学生向け掲示	基準 6-1
資料 226	調剤・ドラッグ・病院薬剤師 職種セミナー3 職種講演会 学生向け掲示	基準 6-1
資料 227	進路ガイド 2023	基準 6-1
資料 228	キャリアデザインノート	基準 6-1
資料 229-1	キャリアハンドブック 2024	基準 6-1
資料 229-2	令和 3 年度前期学生大会要望事項に対する学生部長回答書	基準 6-1
資料 229-3	学生大会要望事項の反映状況について	基準 6-1
資料 230	ハラスメント相談ガイド	基準 6-1
資料 231	コンピテンス調査アンケート 結果	基準 2-1 基準 6-1
資料 232	組換え DNA 講習会案内メール	基準 6-1
資料 233	バイオセーフティ講習会案内メール	基準 6-1
資料 234	遺伝子組み換え実験 講習会案内メール	基準 6-1
資料 235	薬学部基礎実習の手引き、TA 採択者一覧	基準 6-1
資料 236	東京薬科大学緊急対応図	基準 6-1
資料 237	2022 年度学生定期健康診断日程	基準 6-1
資料 238	東京薬科大学障害のある学生への修学等の支援に関する規程	基準 6-1
資料 239	東京薬科大学障害学生修学支援委員会規程	基準 6-1
資料 240	本学 HP) 学生相談「障害のある学生への支援について」 https://www.toyaku.ac.jp/campus/consultation_st/	基準 6-1
資料 241	「学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）」「学生総合共済」案内資料	基準 6-1
資料 242	学校法人東京薬科大学防災管理・災害対策規則	基準 6-1
資料 243	学校法人東京薬科大学安全衛生委員会規程	基準 6-1
資料 244	東京薬科大学ケミカルハザード防止規程	基準 6-1
資料 245	2022 年度新入生用奨学金案内	基準 6-1
資料 246	本学 HP) 理念 大学紹介 東京薬科大学 https://www.toyaku.ac.jp/about/philosophy/	基準 7-1 基準 8-1
資料 247	2021（令和 3）年度事業報告【抜粋】	基準 7-1
資料 248	学校法人東京薬科大学 ICT 整備委員会規程	基準 7-1
資料 249	東京薬科大学情報ネットワーク利用規程	基準 7-1
資料 250	東京薬科大学情報教育研究センター規程	基準 7-1
資料 251	基礎実習用実習設備 主な備品	基準 7-1
資料 252	スタッフのためのマイクロソフト包括ライセンス	基準 7-1

資料 253	ウイルス対策ソフトウェアチラシ_2204	基準 7-1
資料 254	新入生むけ情報倫理 Web テスト受験案内	基準 7-1
資料 255	情報倫理とセキュリティ e-learning 受講のお願い	基準 7-1
資料 256	東京薬科大学研究推進機構	基準 7-1
資料 257	2022 年度共同機器一覧	基準 7-1
資料 258	動物実験計画書作成および提出について	基準 7-1
資料 259	本学 HP) 図書館について https://lib-news.toyaku.ac.jp/about/overview.html	基準 7-1
資料 260	東京薬科大学図書館委員会規程	基準 7-1
資料 261	東京薬科大学図書館選書方針	基準 7-1
資料 262	東京薬科大学研究紀要委員会規程	基準 7-1
資料 263	2022 年度学長委嘱委員会	基準 7-1
資料 264	東京薬科大学オープンアクセスポリシー	基準 7-1
資料 265	東京薬科大学学術リポジトリ https://toyaku.repo.nii.ac.jp/	基準 7-1
資料 266	図書館無線 Wi-Fi の増設について	基準 7-1
資料 267	図書館各種統計情報	基準 7-1 基準 8-1
資料 268	学校法人東京薬科大学事業計画 (2022 (令和 4) 年度)	基準 8-1
資料 269	本学 HP)社会貢献活動 https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/society/	基準 8-1
資料 270	地域連携基本方針	基準 8-1
資料 271	地域連携・地域貢献の目標	基準 8-1
資料 272	本学 HP) 2022 年度春期卒業後教育募集ページ (281 回~283 回) https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/society/skillup-learning/2022spr.html	基準 8-1
資料 273	2022 年度春期卒業後教育プログラム一覧	基準 8-1
資料 274	本学 HP)2022 年度秋期卒業後教育募集ページ (284 回~286 回) https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/society/skillup-learning/2022aut.html	基準 8-1
資料 275	2022 年度秋期卒業後教育プログラム一覧	基準 8-1
資料 276	本学 HP)本学学生が高知県の地域医療を学び、課題解決を提案 https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2021/0124_4899.html	基準 8-1
資料 277	本学 HP) 武田薬品工業株式会社×東京薬科大学連携事業 【第 2 期】 https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/0616_5100.html	基準 8-1
資料 278	地域連携協議会発足資料	基準 8-1

資料 279	2022 年度八王子薬剤師会地域連携活動(薬物乱用防止教室)一覧	基準 8-1
資料 280	MIL2022 年秋号【抜粋】	基準 8-1
資料 281	モバイルファーマシープレスリリース	基準 8-1
資料 282	本学 HP)災害対策医薬品供給車両 (モバイルファーマシー) 出動 https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2021/0531_4475.html	基準 8-1
資料 283	本学 HP)日本テレビ系「ZIP!」 災害対策医薬品供給車両 (モバイルファーマシー) https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2021/0616_4490.html	基準 8-1
資料 284	本学 HP)薬剤師勉強会案内 https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/society/pharmacist-seminar/	基準 8-1
資料 285	広域避難場所及び一時避難場所の施設使用に関する協定書	基準 8-1
資料 286	薬用植物園公開講座 開催一覧	基準 8-1
資料 287	薬用植物園いちよう塾講座 (薬草園) 開催案内	基準 8-1
資料 288	学校法人東京薬科大学施設使用規程	基準 8-1
資料 289	2022 年度共同研究・受託研究実績	基準 8-1
資料 290	東京薬科大学 産学連携に係る目標及び中期計画	基準 8-1
資料 291	東京薬科大学職務発明規程	基準 8-1
資料 292	2022 年度特許出願状況	基準 8-1
資料 293	東京医科大学、杏林大学 姉妹校協定書	基準 8-1
資料 294	いちよう塾 派遣状況一覧	基準 8-1
資料 295	子供いちよう塾 派遣状況	基準 8-1
資料 296	東京薬科大学、東京医科大学、工学院大学 3 大学連携包括協定	基準 8-1
資料 297	医薬工 3 大学包括連携推進シンポジウム 開催一覧	基準 8-1
資料 298	本学 HP)日野市と東京薬科大学との地域の保健、医療、福祉及び介護に関する相互協力・連携協定 https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2018/0327_2958.html	基準 8-1
資料 299	薬物乱用防止教室 アンケート結果	基準 8-1
資料 300	本学 HP)地域に貢献！新型コロナウイルス感染症対策で東京薬科大学 PCR 検査センターを設立 プレスリリース ニュース&トピックス - 2020 年度 東京薬科大学 https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2020/1007_4071.html	基準 8-1
資料 301	PCR 検査センターのご案内	基準 8-1
資料 302	文科省「大学と自治体が連携して地域における検査体制の整備等に取り組む事例」【抜粋】	基準 8-1

資料 303	本学 HP 海外留学・海外研修 https://www.toyaku.ac.jp/overseas/study-abroad/	基準 8-1
資料 304	本学 HP 国際交流 https://www.toyaku.ac.jp/overseas/international/	基準 8-1
資料 305	本学 HP) 高大連携各連携先との締結について https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2020/0222_4309.html https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2021/0608_4485.html https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2021/1222_4848.html https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2021/0209_4933.html https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/0606_5084.html https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/0613_5095.html https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/0824_5210.html https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/1212_5419.html https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/1220_5426.html https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2022/0217_5519.html	基準 8-1

(様式2-2)

薬学教育評価 訪問時閲覧資料一覧

大学名 東京薬科大学

訪問時 閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等 (全大学共通 必須)	備考 (主な基準・観点)
訪問時 1	評価対象年度の教授会・各種主要委員会議事録	各【基準】
訪問時 2	成績判定に使用した評価点数の分布表 (ヒストグラム)	基準 3-2-2
訪問時 3	授業で配付した資料 (レジュメ)・教材 (指定科目のみ)	基準 3-2-1
訪問時 4	追・再試験を含む定期試験問題、答案 (指定科目のみ)	基準 3-2-2
訪問時 5	成績評価の根拠となる項目別採点結果表 (指定科目のみ)	基準 3-2-2
訪問時 6	評価対象年度のすべての学生の卒業論文	基準 3-2-1
訪問時 7	実務実習の実施に関わる資料	基準 3-2-1
訪問時 8	薬学臨床教育の成績評価資料	基準 3-2-2 基準 3-3-1
訪問時 9	学士課程修了認定 (卒業判定) 資料	基準 3-2-4
訪問時 10	入試問題 (評価対象年度の翌年度の入学生を対象とする入試)	基準 4-1
訪問時 11	入試面接実施要綱	基準 4-1
訪問時 12	入学者を対象とする入試結果一覧表 (合否判定資料で、受験者個人の試験科目の成績を含む)	基準 4-1
訪問時 13	学生授業評価アンケートの集計結果	基準 5-2
訪問時 14	教育・研究等の活動記録および自己点検・評価書	基準 3-1-1 基準 5-1 基準 5-2
訪問時 15	教職員の研修 (FD・SD) の実施記録・資料 (添付不可の時)	基準 5-2

(様式 2-2 別紙)

訪問時閲覧資料 1 の詳細 (様式 2-2 別紙)

大学名 東京薬科大学

訪問時 閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等	備考 (主な基準・観点)
訪問時 1-1	2022-12 教授総会議事要旨 (2022. 12. 14)	基準 1-2
訪問時 1-2	2022-09 教授会 (定例) 議事要旨 (2022. 09. 21)	基準 1-3
訪問時 1-3	2022-13 教授会 (定例) 議事要旨 (2022. 11. 09)	基準 1-3
訪問時 1-4	2022-16 教授総会議事要旨 (2023. 03. 22)	基準 3-1-1
訪問時 1-5	2022-7 教授総会議事要旨、資料 (2022. 9. 21)	基準 3-1-1
訪問時 1-6	2022 年度第 1~3 回病院・薬局実務実習運営委員会議事録	基準 3-2-1
訪問時 1-7	2022 年度第 1 回実務実習評価委員会議事録	基準 3-2-1
訪問時 1-8	2022 年度第 1 回病院・薬局実務実習実行委員会議事録	基準 3-2-1
訪問時 1-6	2022-16 教授総会資料 (進級判定資料別紙) (2023. 3. 22)	基準 3-2-3
訪問時 1-7	2022-16 教授総会資料 (進級判定資料) (2023. 3. 22)	基準 3-2-3
訪問時 1-8	2022-2 教授総会議事要旨・資料 (2022. 4. 20)、2022-9 議事 要旨 (2022. 10. 19)	基準 3-2-5
訪問時 1-9	2022-13 教授総会議事要旨 (2023. 01. 18)	基準 5-2
訪問時 1-10	2022-14 教授総会議事要旨 (2023. 02. 09)	基準 5-2
訪問時 1-11	2022 年度第 1~3 回新カリキュラム検討委員会議事要旨	基準 5-2
訪問時 1-12	2022 年度第 1~29 回学部長室会議事要旨	基準 5-2
訪問時 1-13	2022 年度第 1~22 回教務担当者連絡会議事録	基準 5-2

(様式 2 - 1)

薬学教育評価 追加資料一覧

大学名 東京薬科大学

追加 No.	必ず提出する添付追加	自由記入欄 (当該項目の 控など)
追加 1	本学 HP: 卒業生調査レポート _ 東京薬科大学 https://alumni-survey.toyaku.ac.jp/	基準 1 質問事項 1
追加 2	2023 年度キックオフガイダンスアンケート結果	基準 1 質問事項 1
追加 3	2022 年度東京薬科大学合同フォーラム アンケート結果	基準 1 質問事項 1
追加 4	2022 年度東京薬科大学卒業 3 年調査 (2018 年度卒業・修了生対象)	基準 1 質問事項 1
追加 5	本学 HP: 卒業生受入先調査について https://www.toyaku.ac.jp/about/effort/ap/alumni_recipients_survey.html	基準 1 質問事項 1
追加 6	薬学部ポリシー検討委員会開催について (第 1 回) 開催案内	基準 1 質問事項 2
追加 7	薬学部 3 ポリシーに関する学生アンケート	基準 1 質問事項 2
追加 8	3 つのポリシーの一体的な策定・公表に向けて	基準 1 質問事項 2
追加 9	2022 年度第 1 回自己点検・評価、内部質保証委員会議事録 (抜粋)	基準 2 質問事項 2
追加 1 0	2023 年度学校法人東京薬科大学事業計画 https://www.toyaku.ac.jp/pdf/2023_jigyoplan.pdf	基準 2 質問事項 2 基準 7 質問事項 1
追加 1 1	2022 年度ゼミナール修了証	基準 2 質問事項 4
追加 1 2	2022 年度ディプロマ・サプリメント	基準 2 質問事項 4
追加 1 3	「英語学習の継続性を担保する試み」教育改革推進事業 学内報告会説明資料	基準 3-1 質問事項 1
追加 1 4	英語力奨励賞 TOEIC 得点状況	基準 3-1

		質問事項 1
追加 1 5	【薬学部】2022 年度 IPE オリエンテーション資料	基準 3-1 質問事項 2
追加 1 6	2023 年度卒論配属ガイドブック	基準 3-1 質問事項 3
追加 1 7	2023 年度卒論配属教室定員	基準 3-1 質問事項 3
追加 1 8	医療の最前線レポートプロダクト (3 名分)	基準 3-1 質問事項 4
追加 1 9	問題解決プロダクト 1	基準 3-1 質問事項 4
追加 2 0	問題解決プロダクト 2	基準 3-1 質問事項 4
追加 2 1	問題解決プロダクト 3	基準 3-1 質問事項 4
追加 2 2	2022 年度調査研究コース論文題目一覧	基準 3-1 質問事項 5 質問事項 6
追加 2 3	2023 年度実習前教育総括試験問題 (5 年次)	基準 3-1 質問事項 5
追加 2 4	実務実習評価のウエイト	基準 3-2 質問事項 7
追加 2 5	2023 年度 授業計画【抜粋】	基準 3-2 質問事項 8
追加 2 6	2022 年度定期試験揭示	基準 3-2 質問事項 8
追加 2 7	2022 年度総合演習Ⅱ試験揭示	基準 3-2 質問事項 8
追加 2 8	2022 年度総合薬学演習Ⅰ試験揭示	基準 3-2 質問事項 8
追加 2 9	2022 年度総合薬学演習Ⅱ試験揭示	基準 3-2 質問事項 8
追加 3 0	留年者ガイダンス資料：総合薬学演習Ⅰ 不合格者	基準 3-2 質問事項 10
追加 3 1	留年者ガイダンス資料：セミナーコース生	基準 3-2 質問事項 10

追加 3 2	2023_6 年次プログラム案：総合薬学演習 I 不合格者	基準 3-2 質問事項 10
追加 3 3	2023_6 年次プログラム案：セミナーコース生	基準 3-2 質問事項 10
追加 3 4	2019 大学 IR アンケート (3 年) 説明資料	基準 3-3 質問事項 3
追加 3 5	2019 年度シラバス (物理化学 I・III)	基準 3-3 質問事項 3
追加 3 6	IR セミナーポスター20230713	基準 3-3 質問事項 4
追加 3 7	入試種別・入学生の成績分布_2023 版	基準 4 質問事項 1
追加 3 8	2020 年度第 3 回入試委員会 議事録	基準 4 質問事項 2
追加 3 9	2021 年度第 1 回入試委員会 (拡大) 議事録	基準 4 質問事項 2
追加 4 0	2021-15 教授会議事要旨抜粋	基準 4 質問事項 2
追加 4 1	2021 東京薬科大学 TAMA リケジョ育成プログラム理系女性ロールモデル集	基準 5 質問事項 1
追加 4 2	「中高生女子向け理系選択支援プログラム」に対する支援のご案内	基準 5 質問事項 1
追加 4 3	内部質保証・FD 講演会開催案内	基準 5 質問事項 4
追加 4 4	内部質保証・FD 講演会 講演資料	基準 5 質問事項 4
追加 4 5	新任教員 FD ワークショップ_プログラム	基準 5 質問事項 4
追加 4 6	2022 年度 全学 FD ワークショッププログラム	基準 5 質問事項 4
追加 4 7	東京薬科大学プレ FD プログラム開催案内	基準 5 質問事項 4
追加 4 8	プレ FD スライド	基準 5 質問事項 4
追加 4 9	全学 S D 講演会開催案内	基準 5 質問事項 4

追加 5 0	全学 S D 講演会資料	基準 5 質問事項 4
追加 5 1	臨床研修成果報告書 (3 名分)	基準 5 質問事項 5
追加 5 2	在学生要望調査に関する一次まとめ	基準 6 質問事項 1 基準 7 質問事項 1
追加 5 3	事故対応マニュアル(化学物質の取扱い手引き抜粋)	基準 6 質問事項 2
追加 5 4	避難経路図 (矢印入り) 20220921 時点	基準 6 質問事項 2
追加 5 5	東京薬科大学_大地震対応マニュアル	基準 6 質問事項 2
追加 5 6	自衛消防隊ガイド	基準 6 質問事項 2
追加 5 7	全事務職員向け上級救命講習受講依頼 (2023. 7)	基準 6 質問事項 2
追加 5 8	本学 HP: 東京消防庁八王子消防署長より感謝状を授与されました https://www.toyaku.ac.jp/newsttopics/2021/0930_4723.html	基準 6 質問事項 2
追加 5 9	令和 4 (2022) 年度前期学生大会結果 (公示)	基準 7 質問事項 1
追加 6 0	令和 4 (2022) 年度前期学生大会回答書 (学生部長)	基準 7 質問事項 1
追加 6 1	本学 HP : 【受験生向けコンテンツ】 2024 年度の東薬 https://www.toyaku.ac.jp/examinee/2024/2024_toyaku_item.html	基準 7 質問事項 1
追加 6 2	災害対策医薬品供給車両 (モバイルファーマシー) の運用に関する連携協定書	基準 8 質問事項 1
追加 6 3	MP 活動報告・次年度計画	基準 8 質問事項 1
追加 6 4	MP 使用許可申請一覧表 (A4) 202302	基準 8 質問事項 1
追加 6 5	本学 HP : 本学の松本常務理事と薬学部 3 年生 2 名が、中学生に向けて薬物乱用防止教室を実施しました https://www.toyaku.ac.jp/pharmacy/newsttopics/2022/0315_5564.html	基準 8 質問事項 2
追加 6 6	2021 年度講演兼業	基準 8

		質問事項 2
追加 6 7	オピニオンリーダーとの対談 バックナンバー集 - 一般社団法人 医薬品適正 使用・乱用防止推進会議 http://cppjp.or.jp/backnumber/	基準 8 質問事項 2
追加 6 8	オピニオンリーダーとの対談 第 7 回 - 一般社団法人 医薬品適正使用・乱用 防止推進会議 http://cppjp.or.jp/talk07/	基準 8 質問事項 2
追加 6 9	本学 HP : 2022 年度米国臨床薬学研修 (UCSF、USC) 報告会が開催されました。 https://www.toyaku.ac.jp/pharmacy/newstopics/2023/0412_5620.html	基準 8 質問事項 3
追加 7 0	UCSF・USC 報告会説明資料	基準 8 質問事項 3
追加 7 1	国際交流実績(アドバンスゼミナールV)	基準 8 質問事項 3

(様式2-2)

薬学教育評価 追加訪問時閲覧資料一覧

大学名 東京薬科大学

追加訪問時 閲覧資料 No.	訪問時に閲覧を求める資料・データ等 (全大学共通 必須)	備考 (主な基準・観点)
追加訪問時 1	基礎生物学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 2	基礎有機化学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 3	分析化学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 4	漢方薬物学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 5	有機化学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 6	微生物学・免疫学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 7	生化学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 8	天然医薬品化学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 9	薬理学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 10	病態生理学・薬物安全性学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 11	衛生化学・公衆衛生学実習 実習時資料	基準 3-1 質問事項 4
追加訪問時 12	2021 年度拡大入試等検討委員会 答申	基準 4 質問事項 2
追加訪問時 13	2022 年度薬学部総合型選抜 A0、学校推薦型選抜指定校制、 一般公募制推薦入試採点基準、マニュアル	基準 4 質問事項 5